

大阪市立東洋陶磁美術館

〒530-0005
大阪市北区中之島1-1-26

TEL:06-6223-0055

FAX:06-6223-0057

<http://www.moco.or.jp>



休館日

毎週月曜日(8月10日は開館)、8月11日(火)

開館時間

9:30~17:00(入館は16:30まで)

入館料

一般 1,400円(団体1,200円)、
高校生・大学生 700円(団体600円)

※中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)、大阪市内在住の65歳以上の方は無料(証明書等提示)

※上記の料金で館内の展示すべてをご覧いただけます。

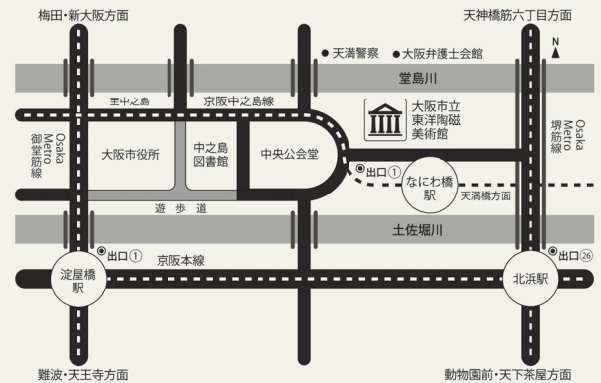
同時開催

【特集展】現代の天目—伝統と創造

【コレクション展】安宅コレクション中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクション韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺

アクセス

- ・京阪中之島線「なにわ橋」駅下車すぐ
- ・Osaka Metro御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」駅、Osaka Metro堺筋線・京阪本線「北浜」駅から約400m



4



こくゆうついでんもんすいちゆう
黒釉堆線文水注 金時代・12~13世紀
高20.2cm、幅14.5cm

その他、黒地に白のストライプ柄の現代でも十分通用するしゃれたデザインの金時代の黒釉堆線文水注(写真④)など黒釉の様々な魅力が満載です。

本展では中国陶磁の歴史において、重要な系譜の一つである天目をはじめとした黒釉陶磁にスポットをあて、当館所蔵品に個人所蔵の作品を加えた唐時代から宋・金時代の作品計24点により、中国黒釉の世界とその美をご紹介します。

なお、本展に併せて、特集展「現代の天目—伝統と創造」を開催します。出品作品の一つとしてご紹介するのが、フランスで唯一の陶芸の人間国宝(メートル・ダール)に認定されているフランスを代表する陶芸家・ジャン・ジレル

(Jean Girel, 1947-)の天目作品、「Iridescent Tenmoku」です(写真⑤)。今回、初公開となります。「虹色(玉虫色)の天目」と名づけられたこの作品は、茶碗の外内に禾目(のぎめ)と呼ばれる細い筋状の斑文が表れ、さらに全体に青や紫などの美しい光彩のグラデーションが生じています。近現代の作家たちが生み出した天目作品を通して、伝統と創造による天目の多彩な表現をお楽しみください。

(大阪市立東洋陶磁美術館学芸課長代理 小林 仁)

※①~④ 大阪市立東洋陶磁美術館(住友グループ寄贈/安宅コレクション) 撮影:西川 茂

【特集展】

現代の天目—伝統と創造

5



Iridescent Tenmoku

ジャン・ジレル(Jean Girel 1947-)作
2016年 大阪市立東洋陶磁美術館
(Ngiam Thong Kin氏寄贈)

学芸員の
おすすめ
コレクション

大阪中之島美術館
準備室

倉俣史朗 《ミス・ブランチ》

デザイン:1988年, 製作:1989年 アクリル・造花・アルミパイプ 87.5×62.0×60.0cm

2021年度開館予定の大阪中之島美術館のコレクションは、美術とデザインの2本柱から成り立っています。今回ご紹介する《ミス・ブランチ》は、デザインコレクションの名品です。アクリルに閉じ込められた造花の赤いバラは、まるで空中に浮かんでいるかのように見えます。

作品名は、テネシー・ウィリアムズの戯曲を映画化した作品「欲望という名の電車」に基づいています。実際の映画はモノクロでしたが、主人公ブランチ・デュボアが赤い服を着ていたという作者のイメージに由来して付けられました。作者の倉俣史朗は家具・インテリアデザイナーとして、またデザインの領域を超えるクリエイターとして国内外で活躍し、多くの作品を残しています。

大阪中之島美術館準備室学芸員 北廣 麻貴

ホームページ <http://www.nak-osaka.jp/> 大阪中之島美術館は2021年度に開館予定です。



大阪市立の博物館・美術館・動物園 **Osaka Museums** <https://ocm.osaka>

大阪歴史博物館 大阪城天守閣 大阪市立自然史博物館 大阪市立美術館 大阪市立東洋陶磁美術館 大阪市文化財協会
大阪市立科学館 天王寺動物園 **大阪中之島美術館準備室** 大阪くらしの今昔館